



細木ユニティ病院

院長挨拶 105

概 要 106

部署責任者一覧 107

医師一覧 107

職員数一覧 107

年次報告 108

診療部 108

看護部 109

医療技術部 117

事務部 122

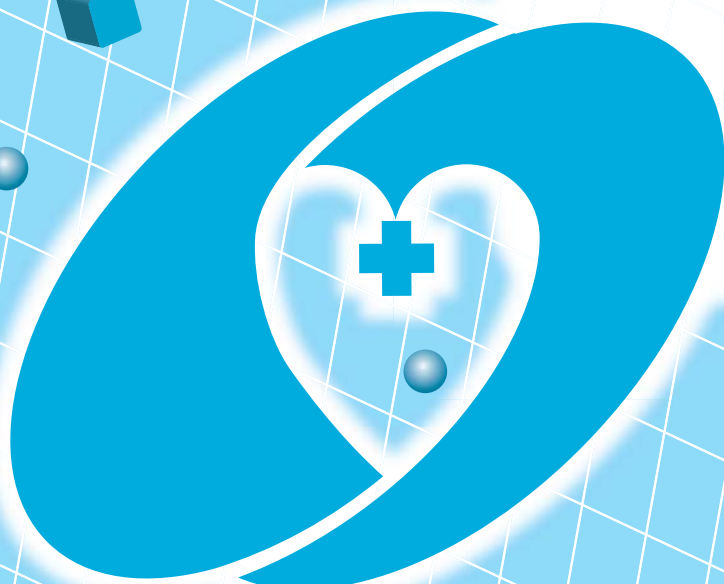
委員会 124

診療実績・業務実績統計 127

院内発表会 131

業績一覧 132

実習・研修生 134



吉川 賢一



細木ユニティ病院の吉川賢一です。

平成25年9月に細木ユニティ病院の院長になり、今年で4年目となりました。

細木ユニティ病院は、看護部、医療技術部、事務部など、合計200名以上のスタッフで構成され、それぞれの仕事に日々取り組んでおります。

現在、精神科の常勤医は、吉岡医師、弘井医師、岡村医師、池田医師、そして吉川の合計5人で頑張っております。

内科の常勤医は松田医師がおり、仁尾医師には週に3日の診察をお願いしております。

また、高知大学の精神科の川村静香先生には、週に1日当院に診察をお願いしていましたが、平成29年3月末で転勤となりました。その代わりとして、大原伸騎先生がこれまでと同様に週に1日の病棟での診察をお願いしております。

当院は、細木病院に隣接しており、身体疾患の治療を細木病院にお願いしたり、その反対に、細木病院より精神疾患の紹介があれば、診察をさせてもらっており、この協力体制が2つの病院の強みとなっております。



細木ユニティ病院



外来待合室

細木病院

細木ユニティ病院

三愛病院
あうん高知

日高クリニック

本部

アドレス・高知

福寿園

積善会

概要

1. 理念・基本方針

細木ユニティ病院理念

- 1) 人権を尊重した医療および快適な療養環境を提供すること
- 2) 症状とともに、環境（生活、家族、職場もしくは学校）を総合的に把握・理解すること
- 3) それに基づき適切かつ迅速なチーム医療を行うこと
- 4) 社会に開かれた精神病院をつくり、地域および関係諸機関との連携を密にして社会復帰を促進すること
- 5) 医療過誤を起こさないこと

職員心得

- 1) 人権を尊重し、アメニティの整備に努める
- 2) 働きがいのある職場環境をつくる
- 3) 「不勉強落第」の心構えで創意工夫する
- 4) 社会に開かれた精神病院をつくり、社会復帰を促進する
- 5) コミュニケーションを大切にする

2. 施設とその内容

①敷地面積、建物面積

敷地面積：3,687㎡

建物面積：2,180㎡（建築延面積：7,160㎡）

②施設内容（各階の目的、機能別）

	S 館	N 館
6 F	ホール、訪問看護室、喫茶“クライナー・ヴァルト”	
5 F	US 5 H 病棟	屋上庭園
4 F	US 5 L 病棟	UNG 病棟
3 F	放射線室、薬剤室、臨床心理室、医療相談室、言語聴覚療法室、更衣室	UN 3 病棟
2 F	US 2 病棟、機能訓練室	院長室、医局、看護部長室、事務室、応接室、図書室、会議室、研修室、脳波室、精神科デイ・ケア、ショート・ケア、デイ・ナイト・ケア
1 F	US 1 病棟（休床）、売店、栄養管理室、臨床検査室	外来、医事課、心理検査室、精神科作業療法室、重度認知症患者デイ・ケア

3. 標榜科目

精神科、神経科、心療内科、内科

4. 施設基準

療養病棟入院基本料 1

療養病棟療養環境加算 1

精神病棟入院基本料15：1

看護配置加算

看護補助加算 1

療養環境加算

精神科急性期治療病棟 1

精神科急性期医師配置加算

入院時食事療養／生活療養（1）

精神科作業療法

精神科デイ・ケア・ショートケア「（大規模）なもの」

精神科デイ・ナイト・ケア

重度認知症患者デイ・ケア

検体検査管理加算（I）

精神科応急入院施設管理加算

精神科身体合併症管理加算

医療保護入院等診療科

精神科救急搬送患者地域連携紹介加算

救急医療管理加算

5. 許可病床数

243床

	S 館		N 館	
5 F	U S 5 H 病棟	28床（精神科慢性期閉鎖病棟）		
4 F	U S 5 L 病棟	29床（精神科慢性期開放病棟）	U N G 病棟	閉鎖：55床 （認知症疾患・精神科慢性期病棟）
3 F			U N 3 病棟	開放：14床・閉鎖：26床 （精神科急性期病棟）
2 F	U S 2 病棟	36床（医療療養病棟）		
1 F	U S 1 病棟	55床 休床（精神科病棟）		

6. 臨床研修

協力型臨床研修医指定病院

部署責任者一覧

平成29年 3 月31日現在

院長	吉 川 賢 一
診療部	
副院長・内科部長	松 田 幸 彦
診療部長	仁 尾 裕
医局長・精神科部長	弘 井 正
神経科部長	吉 岡 隆 興
心療内科部長	岡 村 龍一郎
看護部	
看護部長	岡 本 眞知子
副看護部長	岡 崎 郁 子
U S 2 病棟看護長	藤 原 奈津子
U S 5 病棟看護長	大 坪 壽 明
U N 3 病棟看護長	永 野 吉 昭
U N G 病棟看護長	窪 内 淳 子
外来看護長	川 田 留 美
訪問看護室長	八 木 真己人
精神科デイ・ケア フレンズ室長	大 場 教 子
重度認知症患者デイ・ケア デイ・アルテン室長	中 山 充 代
医療技術部	
栄養管理室長	前 田 光 代
薬剤管理室長	松 木 利矢子
臨床心理室長	野 瀬 一 央
言語療法室主任	前 田 力 丸
放射線室	山 崎 浩一郎
事務部	
事務部長	豊 島 正
総務課長	中 嶋 光 宏
医事課長	浅 津 里 衣
医療相談室主任	曾 根 宏一郎

医師一覧

平成29年 3 月31日現在

精神神経科	吉 川 賢 一
	池 田 久 男
	弘 井 正
	吉 岡 隆 興
	岡 村 龍一郎
	川 村 静 香（非常勤）
	小 南 博 資（非常勤）
内科	松 田 幸 彦
	仁 尾 裕

職員数一覧

平成29年 3 月31日現在

医師	10
看護師	73
准看護師	15
看護補助者	24
介護福祉士	18
薬剤師	2
診療放射線技師	1
臨床検査技師	2
院外講師	6
作業療法士	15
言語聴覚士	1
歯科衛生士	1
精神保健福祉士	8
臨床心理技術	7
管理栄養士	3
調理師・調理員	9
事務員	14
音楽療法士	2
運転手	2
喫茶係	2
計	215

細木病院

細木ユニ
ン
テイ
病院

三愛病院
あうん
高知

日高クリ
ニッ
ク

本
部

アドレ
ス・高
知

福寿園

積善会

診療部



精神科

① 活動内容・目標に対する達成状況

細木ユニティ病院では、平成28年3月に常勤医師1名が退職しましたが、UN3病棟は急性期治療病棟の施設基準を継続し、患者さんの受け入れを増やすよう努力しています。

また、高知県精神科救急の輪番に参画しております。

平成28年度の精神病床での統計では、平均入院患者数は、154.8人であり、病床利用率は、平成27年度は平均76%でしたが、平成28年度は平均80.5%まで戻ってきております。平均在院日数は、精神病床では209.4日で、以前より短くなってきております。

平成28年度には、細木病院より2名の研修医が当院で精神科の研修を行いました。

非常勤で大変ご尽力いただきました、川村静香先生は平成29年3月に退職されました。

② 今後の課題

ユニティ病院の診療部は、まとまりが良く、お互いコミュニケーションが取りながら、協力し合って、診療を行っております。

精神科常勤医師が減員となった状況が続いていますが、今後も、当院の精神科医療を維持、充実していきたいと思っております。

③ 常勤医師の氏名

吉川 賢一 池田 久男 吉岡 隆興
弘井 正 岡村 龍一郎

④ 非常勤医師の氏名

川村 静香（高知大学より派遣医師）
（平成28年4月1日～平成29年3月31日：退職）
小南 博資（平成25年8月7日～）
（文責：心療内科長 岡村 龍一郎）



内科

① 活動内容・目標に対する達成状況

内科は入院患者の身体合併症の治療、外来診察、褥瘡対策および褥瘡回診、NST対策および栄養コンサルトを行っている。日頃身体疾患を合併している精神疾患患者が、精神的に悪化して入院してくる場合には、その大部分の患者は合併している身体疾患の悪化をも来している。内科としては身体疾患の安定化を図り、体調を回復させて退院に持ち込むことを主眼としている。この目標はまずまず達成できたと考えている。

平均して入院患者の半数以上（80人以上）が内科身体合併症治療管理下に置かれている状態である。

「ガイドライン」の勉強会をNST勉強会の機会を利用して実施した。NST勉強会はOpenにしているためスタッフ全員が参加できるはずであったが、NST委員以外からの参加は少なかった。したがって「高齢者医療」についての国のガイドラインの当院での周知・利用は空振りに終わった。

今後、当院にマッチした終末期の医療とケアができるようにするために工夫が必要と考える。

③ 常勤医師の氏名

松田 幸彦

④ 非常勤医師の氏名

仁尾 裕

② 今後の課題

今年は「人生の最終段階における医療の決定に関する

（文責：副院長・内科部長 松田 幸彦）

看護部

①看護部理念

私たちは、細木ユニティ病院を利用する人々のいのちと尊厳を守り、障害や疾病からのリハビリを目指し、こころと暮らしに寄り添った温かなケアを提供します。

平成28年度 看護部目標

1. 細木ユニティ病院を利用する人々の人権を尊重し、治療的環境を整える。
2. 細木ユニティ病院を利用する人々の強みを活かし、その人らしい生活ができるよう支援する。
3. 障害や疾病をもつ人だけでなく、彼らを支援する人々にも配慮し協働する。
4. 病院内外の専門職や各機関とも連携を密にし、より良い医療を目指す。
5. 自己研鑽に努め、学びを現場で生かす。
6. 学ぶ者に対して教育的環境を提供する。

②目標に対する取り組み

1. 接遇委員会では、患者さんやご家族に対する接遇と職員同士の接遇を良くする対策と同時に互いの尊厳を大切にすることを伝えてきた。また、集合教育や分散教育で人権について啓発してきた。ハード面では、感染対策・医療安全対策の推進委員による巡視の成果もあり、安全面では改善が見られた。建物の老朽化はいかんともしがたいが、作業療法士が手入れしている屋上庭園や玄関のウエルカムフラワーは院内外の人々を温かく迎えている。
2. 本年度もセルフケア理論や事例検討などこれまで学んだ知識と方法を生かし、個別性のある看護計画やカンファレンスに取り組んできた。地域で暮らす患者さんたちには、強みを生かした自立支援も実施されてきた。
3. 家族への心理教育の勉強は、それぞれ自主的に行っているが、まだ組織立って家族支援には取り組めていない。しかし、接遇の面から、家族などへの配慮は意識づけられてきた。
4. 医療相談室と看護部長が、法人内の施設や関連病院施設に出向き、当院にできることや、他施設にお願いしたいことを伝えてきた。院内では、各部署合同のカンファレンスや情報共有は継続されている。
5. 例年通り月1回集合教育と各部署の分散教育を開催した。また、主任や中堅者の研修も副看護部長が企画し開催した。院外の研修案内も配布し、看



護部会などで情報提供したが、参加する者には偏りがあった。詳細は「教育」参照。

6. 例年通り実習生を受け入れ、実習に協力した。詳細は「実習・研修生」参照。

③次年度の課題

1. 重点目標として、「患者さんの地域移行・地域定着を進める」をあげる。

急性期の病棟は入院時から地域生活を念頭に置いた看護計画とケアを展開すること、慢性期の病棟は患者・家族のストレングスと可能性を見だし、従来の看護計画とケアを見直すこと、在宅関連の部署では、患者・家族がより自立した存在として、自らの意志で病院や地域資源を利用できるように関わることを行動目標としてほしい。

また、看護部の全員が、一度は地域資源の見学をするか退院前訪問を実行し、患者の地域での暮らしの理解に努めなければならないと考えている。

2. 重点目標として、「病院の外に目を向ける」をあげる。

看護部の管理者研修ではSWOT分析を行っており、自部署の弱みだけでなく強みも見ることができるようになった。しかし、外部の脅威・機会の箇所には、広く医療界・看護界、政治経済など社会の動きまでの視点が、まだまだ少ない。今後ますます厳しくなっていく社会情勢や医療のなかで、いかに生き残っていくかということを、管理職のみでなく、職員一丸となって考え動いていかねばならない。管理職は院外に対してもアンテナを高くして情報を収集し、皆と共有してこれからの細木ユニティ病院のあり様を考え、仕事の目標を立て、達成させなければならないと考える。

(文責：看護部長 岡本 眞知子)
(※平成29年3月31日：退職)



教 育

①平成28年度 目的・目標

1. 倫理観を基盤に、専門職業人として看護・介護の実践能力を自ら高める看護職員を育成できる。
2. 専門的なケアが提供できるために、精神科看護の知識と技術を高める。

②活動報告

看護部主催にて専門的知識や技術を深め、看護職自身やチームの実践力を向上させるために「看護部研修」や「救命・救急研修」を実施。院内外の講師により研修会の充実を図りスキルアップを図った。また、トピックス研修では外部講師をお招きして、地域の資源を活用して地域定着できるような支援方法を学ぶために、見える事例検討会やピアサポーターの役割や活動を知る研修会を行った。

新採用者研修では、入職時研修や5月には病院を離れて海風荘でウエルカムセミナーを実施した。新人同志やプリセプターとの親睦を図り、将来に向けて自分の目標を持ち行動をすることができる、離職防止や職業人・医療人としての意識覚醒のねらいがある。3カ月、6カ月フォローアップ研修で「倫理的感性を育む」をテーマで取り組んだ。12カ月フォローアップ研修では体験の中で学んだことや振り返りを発表し、プリセプターを含め各々の成長や次年度に向けての課題が確認できた。

ケア技術向上研修では介護職を主とする研修内容

で、「ノーリフティング」「姿勢管理」「口腔ケア」「エンゼルケア」「CVPP」などの基礎的な知識・技術について演習を中心に開催した。

院内看護研究並びに業務改善発表会では、看護研究2題と業務改善報告2題で開催した。

分散教育も各部署でのニーズに沿った内容で、主にその部署の職員が講義担当して実施した。今後も分散教育を強化し部署間の連絡を行って、相互乗り入れして研鑽を図っていく必要があると考える。

③業務実績

1. 看護部主催による研修会として、「新人研修会6回」「プリセプター研修会4回」「中途採用者研修会2回」「中堅職員研修会2回」「救命・救急研修会3回」「職員の衛生（腰痛）研修会1回」「看護部研修会11回」「ケア技術向上研修会10回」「管理者研修」
2. 院内看護研究・業務改善発表 4題
3. 臨地実習3校、ふれあい看護体験8名、子ども参観日7名

④次年度の課題

看護手順基準などマニュアルの見直しを行い、職員がマニュアルを遵守することができる。

（文責：副看護部長 岡崎 郁子）



U S 2 病棟

①概要

病棟形態：内科療養病棟

病床数：36床

所属長名：藤原 奈津子

構成職員：看護師 11名(パート2名)
 准看護師 1名
 介護福祉士 4名(パート1名)
 ヘルパー 5名(育休中1名)
 合計人数 21名



③目標に対する取り組み

②平成28年度 目的・目標

1. 患者の人権を尊重した専門的な関わりを行う。
2. 患者個々の能力を見極め、その人らしい生活ができるように支援する。
3. 家族への配慮を十分行い良好な関係性を保つ。
4. 社会資源の活用・福祉との連携を図り、退院後の生活を見据えた個別的な支援を行う。
5. ケア提供者の能力向上を図り、成果を形にする。

1. 他職種定例カンファレンス以外にも申し送り時にケアの方向性を確認し、ケアプランに取り入れ専門的に個別ケアの提供を行うことができた。

2. セルフケアのアセスメントシートの見直しを行い、再アセスメントしケアの見直し、維持に努めた。今年度は職員の入れ替わりもあり、職員間のコミュニケーションは円滑に図れるようになり、ケアの充実が図れた。

3. 面会頻度の高い家族とはコミュニケーションが取

れるが少ない家族には入院費の支払いなどに来院時には必ず声掛けを行い、日ごろの患者の状態を伝えるようにした。また、病棟の老朽化に伴い環境整備が難しい所もあるが、安全面への配慮を行いながら日々の環境整備を行った。

4. 施設入所のための見学に同伴し、必要な調整を行い今年度は施設入所できた患者は3名で自宅退院患者は7名でした。
5. 排泄セミナーや姿勢管理などの研修会に参加した者は病棟の分散教育にて伝達講習を行い、学びを

共有できた。業務改善ではオムツの見直しについて取り組み成果を発表できた。

④次年度の課題

1. 高齢者ケアや身体合併症ケアの知識・技術の向上を図り、患者・家族の思いに寄り添う看護・介護を提供する。
2. 患者の方向性を早期に見極め家族を含めた退院支援を行い、地域移行を促進する。

(文責：看護長 藤原 奈津子)



U S 5 病棟

①概要

病棟形態：精神科慢性期病棟

病 床 数：57床

所属長名：大坪 寿明

構成職員：看護師 15名
(うち1名育休中)

准看護師 4名

介護福祉士 5名

ヘルパー 3名

合計人数 27名



策を早期に実践、徹底する必要性があったと思われる。この経験を次に活かしていきたい。

②平成28年度 目的・目標

- ①患者の人権を尊重し、治療的環境を整える。
- ②患者の強みを活かし、その人らしい生活ができるように支援する。
- ③患者にとって安全・安心・安楽な環境を整える。
- ④院内外の他職種と連携を図り、社会復帰およびより良い医療が提供できる。
- ⑤院内外の研修および病棟内教育に参加し、自己研鑽に努め現場で活かすことができる。
- ⑥学ぶ者に対して教育的環境を提供する。

③目標に対する取り組み

- ①人権や倫理への研修会に参加し、お互いが配慮できるように心掛けている。患者・家族の意向を積極的に取り入れ、看護計画に反映しケアを実践した。また、接遇面では大きなトラブルは見られなかった。
- ②カンファレンスで他職種と情報交換を行い、患者のニーズを取り入れたケアを実践し、セルフケア能力の維持向上に向けた支援をすることができた。
- ③転倒による事故発生が1件（骨折）あった。再発防止に向けて、職員間で共有、分析し改善策を検討して継続的に取り組んでいる。また予防のための物品も活用している。感染対策では、インフルエンザA型が発生し、直ちに個室管理、スタンダードプリコーションの徹底に努めたが合計10名の患者が罹患した。一人目の患者が罹患したことが判明した時点で人が多く集まる場所での活動の一時停止などの対

- ④多職種参加のカンファレンス（週2回）を継続的に実施した。入院患者の長期化や高齢化が進み、退院調整には苦慮しているが、他職種と連携を図りながら、自宅訪問や施設見学を行い、その人にあった生活の場を検討し支援している。

- ⑤分散教育では、病棟のニーズに沿った内容で担当者ごとにテーマを決め、毎月開催し約8割以上の参加率があり、自己研鑽につながっている。院外、時間外の研修会に関しては、情報提供したが参加率は低かった。

- ⑥今年度の看護研究として、「不安を抱えている患者への取り組み」をテーマに取り組んだ。その結果、患者が抱えている不安一つ一つを単体的に着目するのではなく、関連性も考慮しながら全体像を捉えた看護を行うことが大切であるということを学んだ。この結果を今後の患者のケアに活かしていきたい。また実習生が学びやすいように環境調整や対応に心掛けた。

④次年度の課題

- ①院内外の研修会への参加率の向上を図り、自己啓発に努め専門性を高める。
- ②倫理的感受性を深め、より良い接遇・マナーの実践と働きやすい職場環境を整える。
- ③多職種と連携を図り、入院患者のその人にあった方向性を検討し、地域移行・地域定着へとつなげていく。

(文責：看護長 大坪 寿明)



UN 3 病棟

①概要

病棟形態：精神科急性期治療病棟

病 床 数：40床

（閉鎖病棟26床うち保護室 5 床、開放病棟14床）

所属長名：永野 吉昭

構成職員：看護師 15名
准看護師 1 名
介護福祉士 4 名
ヘルパー 3 名
クランク 1 名
合計人数 24名

②平成28年度 目的・目標

- ①患者のQOLおよびセルフケア能力向上を図り自立を支援する。
- ②精神科救急がスムーズに、かつ安全に行えるよう、精神科急性期病棟の体制を整える。
- ③院内外の研修および分散教育に積極的に参加し、自己研鑽に努める。
- ④実習生に対して、教育的環境を提供し協力する。

③目標に対する取り組み

- ①作業療法、集団療法、生活療法などを通して社会適応能力の向上を支援できている。
患者の自己決定を支えるノーマライゼーション実現のための援助を行う個別リハビリを行い、活動性の維持に取り組んでいる。
- ②退院計画を早期に行い充実した援助を行い、他部門との連携を図り、患者が安心して社会復帰できるよう調整に努めている。他病棟・外来との連携を図り



ながら常に患者の受け入れができるよう調整できている。

- ③勤務時間内の研修会参加が、病棟業務のためキャンセルせざるを得ないことあり、参加率は高くない。院内院外とも研修情報を伝え参加を促している。
- ④看護学生を受け入れ、実習指導者のみならず全スタッフが実習生に対して、教育的関わりができています。

④次年度の課題

平成29年度は、患者が早期に退院し、退院後の地域定着ができるように、精神科急性期治療病棟としての役割を果たすことを目標とする。

入院中より関係機関と連携し、地域生活を維持できるよう生活全般を視野に入れた支援を行い、患者、家族はもとより、他部門多職種との連携したチームで取り組んでいく。

（文責：看護長 永野 吉昭）



UNG 病棟

①概要

病棟形態：精神科慢性期閉鎖病棟

（高齢者対応）

病 床 数：55床

所属長名：窪内 淳子

構成職員：看護師 16名
准看護師 4 名
介護福祉士 2 名
ヘルパー 7 名
合計人数 29名



②平成28年度目標

1. 患者の人権を尊重し患者のニーズに応じた専門的ケアを提供する

2. 患者の安全に留意した療養環境を提供する
3. 他職種や地域と連携を取り早期社会復帰を支援する
4. 部署の業務内容を見直し業務改善に取り組む
5. 慢性期精神疾患患者・認知症患者の個別性を重視

- したケアの充実を図る
6. 学ぶものに対して教育的環境を提供する

③目標に対する取り組み

1. 患者・家族のニーズを取り入れた看護プランを作成し、ケアの実施、プランの評価を行いケア提供した。
2. 環境調整を行い感染症予防に努めてきたが、年明けに1名の患者が疥癬を発症した。他に拡大することなく終息することができた。
3. 定期的に他職種・家族・患者を含めたカンファレンスを行い、入院期間の見直しを行い、他職種との連携を図り社会資源などの情報を提供し社会復帰につなげた。

4. 部署内の業務を円滑に遂行するためスタッフと話し合いを業務の見直しを行った。
5. 患者の人権に配慮し自尊感情を高めるケアを取り入れながら、セルフケア能力を維持・向上できるように看護・介護を行った。
6. 実習生が学びやすいように環境調整を行い、接遇面に配慮し実習しやすい雰囲気作りを行った。

④次年度の課題

1. 他職種と連携をとり早期社会復帰に取り組む
2. 看護研究を行い成果を発表する
3. 倫理に対する理解を深め職場環境を整える

(文責：看護長 窪内 淳子)



外 来

①概要

所属長名：川田 留美

構成職員：看護師 3名
准看護師 1名
事務 1名
合計人数 5名

②平成28年度 目的・目標

1. 外来患者や細木ユニティ病院を利用する人々の人権を常に尊重し、治療的環境を整える
2. 病院を利用する人々の強みをいかし、その人らしい生活ができるように支援し温かなケアを提供する
3. 障害や疾病を持つ人だけでなく、彼らを支援する人々にも配慮し協働する
4. 病院内外の専門職や各医療機関とも密に連携をとりより良い外来看護、医療を提供する
5. 常に自己研鑽に努め、学びを現場で生かし向上する
6. 学ぶものに対して教育的環境を提供する

③目標に対する取り組み

1. に対して
患者の権利や倫理綱領などについて、常に念頭におき病院を利用する人々の人権に配慮している。連携については倫理的配慮をした対応に心掛け円滑な治療環境を整えている。
2. に対して
看護師は観察や情報収集の必要性を認識し、常に患者・家族とのコミュニケーションをとり情報を職員間で共有し外来看護へ反映できている。各会議に参加し他職種と情報交換を行い適切なケアの提供への支援をしている。



3. に対して
患者の生活・社会環境を十分に把握し、支援する人々に配慮・調整・看護介入を行い治療的環境を整備している。また支援する人々の役割を認識し患者・家族との調整役を担い円滑な看護を展開できている。
4. に対して
患者の基本的情報を理解し、問題、疑問、解決策、介入方法などさまざまなことを考慮し他機関と連携を取りより良い看護を展開している。
5. に対して
各研修会への参加について積極的に参加できている。研修会への参加で知り得たことは伝達講習を行い外来看護へ反映している。
6. に対して
目標に沿った教育関連事項の研修会参加への支援と自己啓発を促している。

④次年度の課題

1. 外来治療の継続と安定した地域生活の継続を支援するためにチーム医療を推進する。
2. 専門性の高い外来看護を提供するために自己啓発に努める。
3. 接遇力の向上に努める

(文責：看護長 川田 留美)



訪問看護室

①概要

所属長名：八木 真己人

構成職員：看護師 4名

作業療法士 2名

合計人数 6名

②平成28年度 目的・目標

- ①利用者のこころと暮らしに寄り添いその人の人権を尊重した援助を提供する
- ②利用者のQOL向上およびセルフケア能力向上につながるよう支援する
- ③利用者を支援する人々への支援（家族支援）
- ④地域・院外関連機関・院内他部署との連携を強化し、在宅においてその人らしい生活ができるように支援する
- ⑤学ぶ者に対して教育的環境を提供する

③目標に対する取り組み

医療全体の流れとしては地域移行・地域定着を推進しており訪問看護の役割は今後ますます重要になって来ると考えられる。①②については地域で生活していく上で何が必要で何が足りないのかを利用者と一緒に考え援助を提供することができた。また、他職種複数人で訪問することより、看護師による病状の把握と、作業療法士により生活改善方法を同時に提案することができた。

③については、訪問中家族に同席してもらい対人交流場面をみてもらうだけでも、利用者とのかわり方



が変化する家族もおられ、利用者・家族双方に気づきの場を提供できていたと考える。

④についてはカンファレンスに積極的に参加することで他部署と連携を強化し、情報の共有化ができていた。院内・外カンファレンスについても今年度は58件参加できている。

④次年度の課題

地域移行・地域定着が、大きな目標であるが、利用者個々で求めるものにも違いがある。その違いを把握し、それぞれの利用者が安全・安心・安楽な在宅生活を送れるよう支援していくことが大切となる。加えて利用者が地域で生活していく上で、障がい福祉サービス事業所や介護保険サービス事業所との連携は今後ますます必要となってくると考えられる。そのため、訪問時利用者に必要な情報提供を行えるよう、常に各職員が自己研鑽に努めなければならない。

（文責：室長 八木 真己人）



精神科 デイ・ケア、デイ・ナイト・ケア、ショート・ケア「フレンズ」

①概要

所属長名：大場 教子

構成職員：看護師 3名（うちパート1名）

作業療法士 3名

心理士 2名

精神保健福祉士 1名

音楽療法士 1名

看護助手 1名

合計人数 11名



②平成28年度 目的・目標

1. 利用者の人権を尊重し、利用者の主体性に応じた個別的な支援をする
2. 個々のニーズや能力に合わせた治療プログラム検討する
3. 利用者の安全を守り、安心・安楽な環境を整える

4. 院内外の関連部門との連携を強化し、社会復帰および就労への促進を図る
5. 院内外の研修および分散教育に参加し、自己研鑽に努める
6. 費用対効果を考慮し、デイケア運営を行う
7. デイケアの質の向上を目指し、研究を行い実践に

生かす

8. 実習生に対して教育的環境を提供し、協力する

③目標に対する取り組み

4月からの診療報酬改定により、長期にわたって頻回にデイケア利用者がより自立した生活への移行を促そうと算定用件が見直された。デイケア利用週4日以上のメンバーを4月から週3日以内に検討し、個々にあったデイケア利用・活動目標を考え、個別に面接を行った。就労を目指すメンバーは事業所などの見学・体験を行い、居場所や生き甲斐を見つけ、活動の場をデイケア以外の場でも提供できるように各担当が支援した。

行政との連携では、高知市主催の「地域いこう会」にも出席し、地域で安心して暮らせるように、関係機関が集まって意見交換や研修を行うことで、個々の生活に視点を向け、支援していくことを再認識し支援を行った。また、高知市主催のピアサポーター研修では、7名のメンバーが参加し、うち1名はピアサポーターとして活躍している。

デイケアでは、自立に向けた支援をスタッフ全員が意識し、日々のプログラム活動や個別支援を行った。プログラム調整では、メンバーの意見も取り入れ、検

討を行い、プログラムの改善をし、第3者から見ても治療プログラムが、分かるようなものを作成したく院内の業務改善報告し、次年度も引き続き検討する予定である。

デイ・ナイト・ケアは、週5日を週4日とし、毎週（水）のデイケア終了後は、部署内で、分散教育や業務改善、運営に関する検討会等を行った。感染に関しては、2月にはインフルエンザがメンバーもスタッフも流行し、一日臨時でデイケアが休みとなった。

④次年度の課題

1. 地域で自立して、生活ができるように支援する
2. 週4日以上利用者、グループホーム利用者の支援を検討
3. 65歳未満の障害福祉サービスの利用者への支援および65歳以上の介護保険サービス併用する・仁生会で利用できるサービスへの移行検討
4. 前年度、改善したプログラム内容を実施しながら、自立へつながらプログラムへ改善
5. 地域定着できるように院内外の関係機関と連携し、情報を共有する

（文責：室長 大場 教子）



重度認知症患者デイ・ケア デイ・アルテン

①概要

所属長名：中山 充代

構成職員：看護師 3名
認定心理士 1名
作業療法士 3名（うち1名病欠中）
介護福祉士 2名
（うち1名週2日パート）
ヘルパー 2名
運転手 1名（パート）
合計人数 12名



行っている。

②平成28年度 目標

- 1) 利用者とその家族を中心とした支援が行えるデイ・ケアを目指す
- 2) 安全・安楽な生活の場が提供できる
- 3) 院内外を問わずスムーズな連携が図れ、情報共有が徹底できる
- 4) チーム内での情報共有が徹底できる
- 5) 医療専門職として自己研鑽する

③活動内容・目標に対する達成状況

- 1) 日々の変化の伝達や家族の思いに対して、誠心誠意対応を行い、家族が相談しやすい雰囲気作りをスタッフ全員が心掛けている。また、心身の安定を図るように、個別対応を行い、柔軟に対応を

- 2) 安全な環境の維持を行うため、物品の配置などには常に気を配り、安全に考慮している。また、感染症予防対策も自分たちが感染源にならないようにスタンダードプリコーションを徹底して行った。
- 3) 関連諸機関とは、情報交換を密に行い、情報共有の徹底を図っている。
- 4) 個々の役割の理解が進み、意見を出し合いやすい環境作りができており、スタッフ間の情報共有ができています。
- 5) 専門職としての知識・技術の向上の必要性を理解し、院内外を問わず積極的に自己研鑽は行っている。

④次年度課題

- 1) 身体機能評価や症状アセスメントも併せて行っていけるようになる。
- 2) 安全に関し、危険予測を行う、危険因子の除去ができるようになる。
- 3) 関連諸機関、関連部署との情報共有ができ、継続したケアに生かせる。
- 4) 日進月歩する医療界で自己研鑽できる。

⑤まとめ

高知県は他県より高齢者率・認知症発症率も高いです。その中で、孤軍奮闘しているのが、高齢者の妻（夫）である。老老介護を強いられることや認知症の夫婦が認知介護を行っているなど、身近に起こっています。

ます。少子高齢化に加えて、若者が県外へ就職して行くことが多く、家族形態の変化が著明です。そのような実状の中、支える者が近くに居ないことも多々あります。認知症患者を支える家族の支援を行うことは、在宅生活を継続する上で重要ですが、一方で、認知症に罹患しながらも高齢者の独居生活をしている方、天涯孤独の方も居ます。状況に応じて生活環境を考え直し、個に合わせた対応や働きかけの迅速な対応が求められています。個を取り巻く医療・福祉の両スタッフが情報共有を密に連携を図り、家族の心境にも寄り添いながら、納得のできる支援体制が求められ、需要を増していくのだと感じています。

（文責：室長 中山 充代）



グループホーム「介援隊」「やまもも寮」「介援隊2」

①概要

所属長名：坂本 万理

構成職員：管理者兼サービス管理責任者 1名
世話人 6名
生活支援員 1名（医療相談室兼任）
合計人数 8名



②活動内容・目標に対する達成状況

1. 利用者のQOL向上およびセルフケア能力向上へつながるよう支援する。
2. 利用者の人権を尊重した専門的援助を提供する。
3. 利用者にとって、安全・安心な環境を整える。
4. 利用者の家族への支援をする。
5. 利用者の退所に向けての支援をする。
6. 学ぶ者に対して教育的環境を提供する。

報の収集をし、災害時に備えていく。

③今後の課題

1. 生活の中でのサポートは世話人・管理者でできていた。今後は利用者自身が自主的に生活の質の向上に取り組めるように支援していく。
2. 定期的に面接に機会がない利用者や家族との面接機会を意図的に増やす。利用者・家族のニーズの把握を行っていく。
3. グループホーム内の消火設備などの点検は定期的に行うことができた。また、利用者・世話人・管理者で定期的に避難訓練ができた。今後も防災情

4. グループホーム内でのルールが守れない利用者への支援を家族とともに行ったが、短期的には効果が現れにくいと感じた。今後は長期的な視点で支援を行うことを意識し実践していく。
5. 退所後に必要なスキルを向上するためにスタッフが声掛け・指導を継続する。計画的に声掛け・指導ができていない利用者へは個別支援計画に沿った支援を検討・実践する。
6. 実習生の受け入れはできた。スタッフは院内研修会によく参加できていたが、院外での研修会参加が少ない。今後は院外研修会への参加を意識的に増やしていきたい。

（文責：施設管理者 坂本 万理）



薬剤管理室

①概要

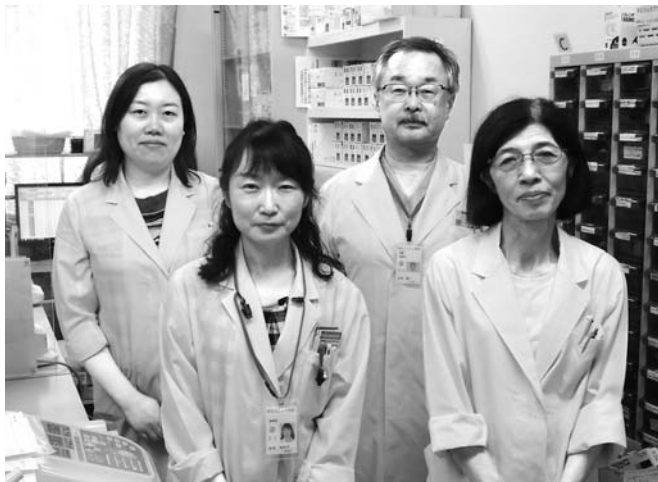
室長：山本 創一（平成29年4月1日就任）
 構成職員：常勤 2名
 パート 1名
 事務員 1名
 合計人数 4名

②活動内容・目標に対する達成状況

平成28年度目標として以下の3項目を挙げる
 ①治療の質の向上を目指し、自己研鑽に努める
 ②チーム医療に参加し、他部署との連携を図り相互理解を深める
 ③医療事故防止の取り組みとして以下のことを実行する。
 ・自己管理に務める
 ・調剤室内の整理整頓
 ・処方監査の徹底
 ・調剤過誤の原因を理解、把握

＜達成度＞

①に対しては、病院内外の研修会・講演会に参加して自己研鑽に努めることができた。
 ②に対しては、常勤薬剤師1名の体制であり前年度同様、カンファレンスや他部署と共に行っていた疾病教育などに参加できないままであった。
 ③に対しては、薬剤室の薬品配置や在庫置き場所の表示、薬品の表示方法、注意喚起表示などを整備し、調剤ミスを防止する体制を整備した。また、事務員や他部署などのさまざまな人たちの協力があり、調剤業務に集中できる環境を整えることが



でき、インシデント、事故は起こさなかった。

③今後の課題・まとめ

平成28年度は常勤薬剤師1名体制であったため、各種委員会や疾病教育などに前年度同様参加できず、調剤や薬品管理を主とした業務であった。今後は休止していた薬事審議会の開催や各種の委員会・カンファレンスに参加し、薬剤師としての活動を充実していきたい。後発医薬品は平成28年度に抗精神病薬と内科系の薬を中心に21品目を導入した。後発医薬品導入は継続し、今後は細木病院の採用医薬品との統合も視野に入れながら採用医薬品を検討していく。医療事故防止の取り組みは、調剤において一定成果をあげており、継続しながら、他部署との連携の図り医療事故を起こさないよう努めていく。

（文責：室長 山本 創一）



臨床検査室

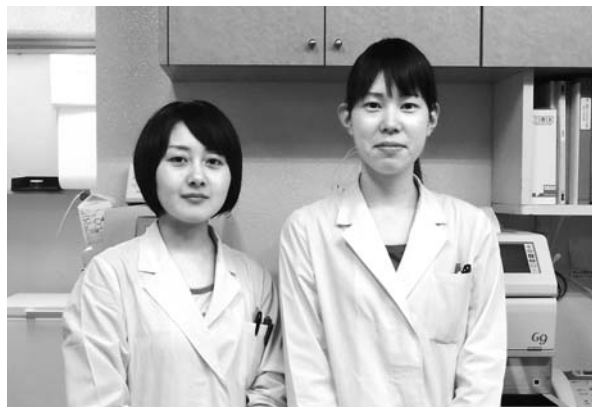
①概要

構成職員：臨床検査技師 2名

②活動内容・目標に対する達成状況

1. 迅速に正確な検査結果を報告する
2. 医療の質の向上に寄与できるよう自己研鑽に努める
3. チーム医療の一員として他職種との連携を図り、情報の収集・発信を行う

1は、至急検査を優先してその後ルーチン検査を行



うことで対応したが、1人勤務時に検体検査と生理検査の依頼が同時にあった場合などに結果報告が遅れることがあった。日々正確な検査結果を提供するため、日本臨床検査技師会、高知県臨床検査技師会主催の精度管理をはじめとするさまざまな精度管理に積極的に参加し、良好な結果を得ている。

2は、中四国医学検査学会をはじめ、院内外の研修会や勉強会に参加し新しい情報を集め、日々の業務に活かすようにした。

3は、例年行っている勉強会に加えて要望のあった心電図の記録の仕方や検査結果の見方、結核についての勉強会を行った。他職種の人たちにも検査について知ってもらい良い機会となり、正しく説明することで私たち自身も改めて基礎から学び直すきっかけにもなった。今年診療報酬の改定があり、点数の変更があったものを資料にまとめ、適正委員会にて報告をし

た。また検査コストを考慮し、医師と相談して包括対象項目を含む院内セット検査項目の見直しをした。

③今後の課題・まとめ

ここ数年は2名の技師が退職し人員が減ったことで、1人あたりが実施する検査件数が増加し、慌ただしい状況であった。2名体制となり3年が経過し、現在では少人数でも迅速に効率良く業務を行うことができるようよく考え、臨機応変な対応を行えるようになった。

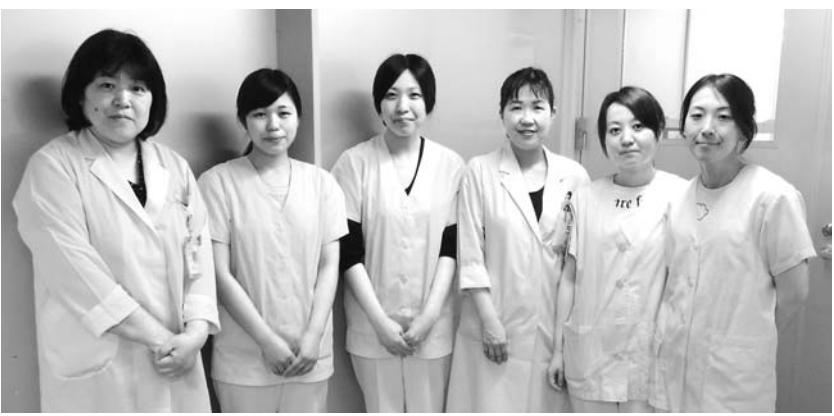
生化学分析機が稼働から10年が経過した。経年劣化によるトラブルが発生しやすい状況であることを認識し、取り扱いやメンテナンスに注意しなければならない。

(文責：宮尾 奈津希、栗林 亜由美)

栄養管理室

①概要

所属長名：前田 光代
構成職員：管理栄養士 2名
調理師 7名
調理員 2名
合計人数 11名



②活動内容・目標に対する達成状況

- 1. 多職種連携と適正な栄養管理業務の推進
- 2. “食”の安全安心と質の向上
目標はおおむね達成できた。
①多職種との情報交換を密に行えるよう調整し実施している。3月の高知県精神科総合研究会では、

「精神科デイケアにおける生活改善プログラムによる集団療法の取り組み」を共同研究として関わった。また、一部の病棟ではあるが、誤嚥性肺

▼ デイ・アルテンの誕生会（抜粋）



5月の盛りあわせ



レモンタルトと紅茶の二色ゼリー



お月見白玉



小豆ロールinゆずクリーム



X'mas Cake



祝 酉年

炎の軽減、衛生管理の確保、業務の簡素化・効率化を目的として、トロミ付高栄養濃厚流動食（バック）を導入した。経費は個人差の増減はあったが、総合的にみると安価となり、安全で機能的な業務が遂行できている。食事指導は前年度比入院116%・外来98%となった。内訳としては個人指導が減り、集団指導の回数や参加者が増加していた。

6月には現業業務で環境整備とし、調理師・調理員の勤務の見直しを行った。主には昼休みの一部90分を60分に統一した。拘束時間を短縮し、出勤時間と業務作業の分担を変更した。

- ②毎年人員不足を報告しているが、今年は6名の退職者（期限付きアルバイト3名含む）があり、現状としては非常に緊張の耐えない1年であった。このような状況を理解し、冬休み帰省中の子どもさんをアルバイト勤務させていただいた看護師さんをはじめ、食材などについて難題を投げかけ答えていただいた業者の方々の協力には感謝している。また、多様な中で質をおとさない献立への配慮、趣向をこらし継続しているデイ・アルテンのおやつやお誕生会のおもてなし、当室の職員の活躍と底力に拍手をしたい。

③今後の課題

職員の早期充実を実現し、通常業務を安定させ、より業務改善を行う。

④まとめ

前向きに専門性を発揮できる環境調整に努め、患者さんの栄養管理に貢献したい。

（文責：室長 前田 光代）



作業療法室

①概要

所属長名：吉村 康代
構成職員：作業療法士 6名
音楽療法士 1名
講師 3名
合計人数 10名

②目標・活動内容に対する達成状況

1. 現在のプログラムの維持、充実を図り、日常生活に必要な活動の再体験の場を提供する。
2. 既存のプログラムを維持していくとともに、患者さんの変化に合わせて新たなプログラムの開発を行う。
3. 個人のニーズに合わせたプログラムの立案・実施・評価を行い、個別OTの充実を図る。
4. 作業療法で起こりうる危険性に留意し、リスク管理の徹底を行う。
5. 部署内で勉強会を開き、情報共有を図って知識を深めていく。
6. 入院患者さんだけでなく、外来患者さんの支援も重視し、外来患者さんが参加しやすいプログラムを立案する。

達成状況

平成28年度は、前年度の重点的な目標を継続して取り組み、それに加えて個別作業療法・個別音楽療法の実施と新規プログラムの立ち上げを行った。通常のプログラム運営は、OTスタッフ間で直接相談・提案をしていき、情報共有を密に行い、急な変更にも速やかに対応することができ、安定した作業提供が図れた。

個別性の強化として個別作業療法・個別音楽療法を



前年度より強化することができた。

内容としては、「園芸」「散歩レク」「身体機能訓練」「音楽活動」など対象者にあったニーズになるように関わりながらさまざまな内容の活動を行い、「個性」への強化につながり対象者の入院生活・地域生活に沿った活動内容にすることができた。

新規プログラムとしては「集団認知行動療法」を取り入れ、外来患者さんへの支援を広げる機会となり、多職種とも連携を図りさまざまな視点で評価ができ、個人の状態把握や関わり方・考え方を学び取り入れることができた。

業務に関しては、部署内で勉強会を開き、個人個人が学んできた知識・技術を共有することで知識を深めることができた。また新たにNST委員会・NST勉強会にも参加し始めた。

③今後の課題・まとめ

個別プログラムが増え、個人のニーズに合わせた活

動が増えてきている。また、外来患者さんが参加するプログラムも増えた。しかし、地域に向けた退院後のサポートに関して十分なプログラム提供には至っておらず、参加しやすさもまだ十分とは言えない。

また、個々の状態に合わせた身体管理のアプローチに関して知識・技術面で足りないところも多く十分な支援が難しかった。

今後は、部署内で知識の共有を強化し、スタッフ個人の知識・技術の向上に努め、対象者のニーズにあったアプローチを提供していき、プログラムの改善、退院促進、退院後のサポートにつなげていきたい。

(文責：作業療法士 西嶋 啓彰)



臨床心理室

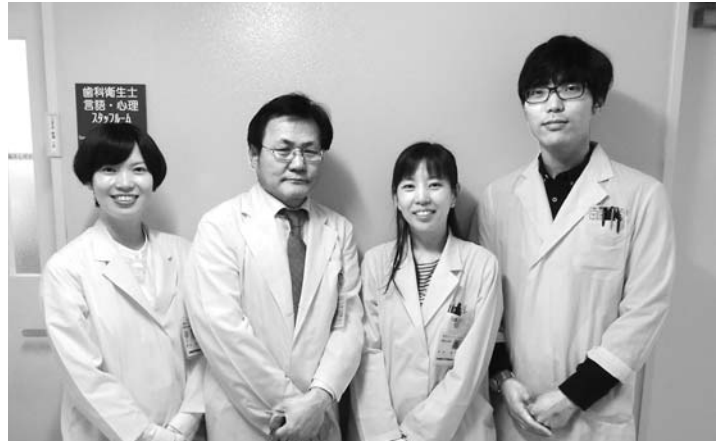
①概要

平成28年度は室長を含め、臨床心理士4名配置。当院での心理検査合計は358件で、前年比で90件増、認知症検査が68件増、その他35件増、人格検査は4件の減となっている。扱う人格検査の種類は本年も前年同様に8種類と変わらないが、外来では現在の不適応行動にどのようなことが起因しているかを把握したいニーズが多くなっているように感じる。より詳細な状況把握のために、その他の検査では本年も前年と同様に13種類と多種になっている。その理由はレビー小体型認知症（いくつかの検査の組み合わせや問診も必要）やさまざまなタイプの気分障害の診断、診断や対応が難しく複数の検査の組み合わせが必要なケースの増加が考えられる(図1、2 p130)。心理面接件数合計では前年に比べ1.38倍の713件増(図3 p130)で、月平均の面接件数も前年191件、今年214件と増加している。外来患者さんへの面接や家族への対応が以前にもまして多くなってきていることを表している。さらに、大人の発達障害の把握と支援に向けて各々の事情に即した援助を展開している。本年度はU・N・3病棟における疾病教育は病棟中心となり、これに変わり図では紹介していないが、集団での認知行動療法が115回定期的に開催され固定化され、また関係者とのカンファレンスも93件と増加している。

②業務実績

以下の目標のもと業務にあたった。

- ①患者さんのプライバシーを守り懇切丁寧に対応する
- ②カンファレンスで、情報・意見交換を行い、有効なアプローチを提案する
- ③病棟の患者さんで心理的援助が必要な方に疾病教育や面接を行う
- ④専門的技術や対応を取り入れ、患者さんおよび家



家族の援助を進める

①、②はできている。③疾病教育などを患者さんに対して個別に継続的に実施、④研修会、勉強会などで発表や参加を通して家族援助を行い、必要に応じ迅速に家族との関係調整や面接を行った。

最近では就労援助の機関と連携を強めている。

③今後の課題

年々、様相を呈する複雑なタイプの患者さんに対して検査や対応をチームで検討し、医師や他部門とより一層の連携強化が迅速に行われることが要求されており、さらに即時随時の細かいミーティングを重ねて個別対応に配慮する必要がある。

最近では、ベースに発達障害が想定されるケースが多くみられ、さまざまな情報の精査が必要とされる。多職種と密接な連携した対応を要するのは当然のこと、一人ひとりの特性に応じた対応や丁寧で具体的な綿密な面接が重要となってくる。さらに社会で適応していくためには関係者の理解を得るための説明や情報発信が求められている。

(文責：臨床心理室室長 野瀬 一央)



歯科衛生事務室

①概要

構成職員：歯科衛生士 1名

②活動内容・目標に対する達成状況

病棟や重度認知症デイケアでの定期的な口腔ケアの実施、外部歯科との連携、往診時の歯科診療補助、勉強会講義を中心に活動しています。ご家族さま・施設・地域歯科医院への情報提供を行うことにより、関係者が患者さまおよび利用者さまの口腔内状態を把握することが可能になり、スムーズな歯科治療が行えています。また、歯科治療介入に伴い、患者さま自身が口腔清掃に関心を持つこともできており、その関心が口腔清掃の習慣化につながっていけるように支援しています。

平成28年度目標は

- ①歯科衛生士の存在の周知と職域を理解してもらう
- ②外部勉強会への参加で自己研鑽に励むと同時に、同職種の方との意見交換を行う
- ③他部署との情報交換を図る
- ④外部歯科との連携を図り、往診治療に向けての一連の流れをシステム化する
- ⑤口腔ケアの意識を高める啓発活動の方法を考え、保清の意識を持ってもらう

と設定しました。

この目標に対しての達成度は、①③④についてはおおむね達成できたと考えます。②については、他施設の歯科衛生士と立ち上げたグループが順調に機能し、口腔と全身を総合的に考えられるよう、質の高い内容で勉強会を行うなど発展しています。⑤については、対象者を拡大して取り組むことができ、少しでも口腔内に関心を持つ機会を作ることができました。



③今後の課題

誤嚥性肺炎の予防に関しては、全身的な変化を捉えながら口腔内に着目していく視点を強化させていきたいと考えています。他施設との情報共有や院外勉強会への参加、研究活動なども重要となってくると考えています。入院患者が退院後も安心して歯科治療が継続できるように、地域歯科医院とのつながりを大切に、情報を共有しながら取り組んでいきたいと考えております。精神科患者においては、まだまだ口腔衛生に関心を向けられていないのが現状です。長期的な関わりの中で、関係性を育みながら、保清への意識を高められる取り組みを考えていきたいと思っています。

④まとめ

精神科患者の特性を踏まえながら、セルフケア能力向上の支援と、口腔に関する情報提供を行っていききたいと思います。また、これまでと同様、院外勉強会での関わりの中で、他施設での取り組みなどの情報を入れながら、誤嚥性肺炎予防を目的とした口腔衛生活動を継続していきたいと考えています。

(文責：歯科衛生士 内平 真実)

事務部

①活動内容・目標に対する達成状況

平成28年3月に精神科常勤医が退職し入院患者の減少が予想されたが、1日当たり入院患者数が目標より多く、入院収益が増加した。

労働安全衛生法の改定により50人の事業所ではストレスチェックの実施と高ストレス者への面接指導が義務化され、平成27年12月に事業を開始した結果、平成28年度は125事業者約15,000人を実施した。



(文責：事務部長 豊島 正)

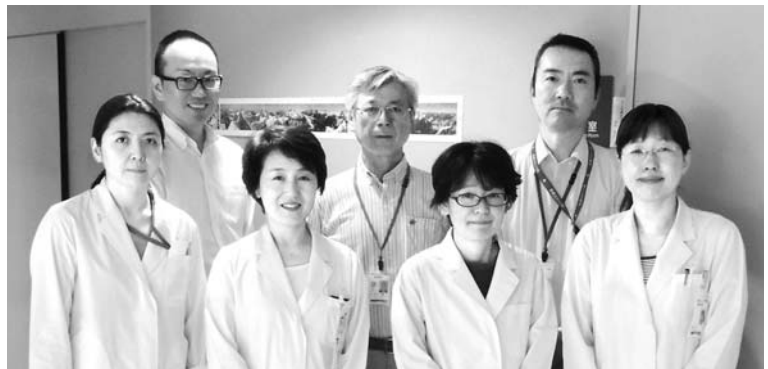
②今後の課題・まとめ

精神科常勤医師の確保およびストレスチェック事業の運用を確立することが課題である。

総務課

①概要

課長：中嶋 光宏
構成職員：常勤 5名
(うち 秘書1名、司書1名)
パート 2名
合計人数 7名



②活動内容・目標に対する達成状況

平成28年度は急な形で1名が退職となり、給料作業やIT関係の対応で多少の混乱が生じる。しかし、IT関係の対応では外部委託に踏み切り、10月には新たなメンバーも1名加わり、全体的な流れとして、新たな総務課体制は良い結果につながった。

総務課としては学術的多職種連携によるチームの一員として、病院の健全な発展に貢献するため、課内の情報共有はもとより、おおむね他部署との意思疎通を図り、病院全体の円滑な業務の流れを阻害しないよう積極的に取り組んだ。また、全般的な事務処理による人的ミスをなくす対応として、全般的業務内容の見直しや整理を行った。

前年度に引き続き、コスト意識を高め、各種の経費削減や委託業務の見直しなどを行い、節減に努めた。平成28年4月からはストレスチェック事業を開始し、

病院の収益に大きく貢献した。

③今後の課題・まとめ

総務課としては、病院経営への参画意識を高めるため、組織全体に明確なビジョンを共有化し、中・長期的な展望をもって組織として取り組み、さらに新たな時代の変化に伴い、病院体制の変化に向け、新たな事業展開の準備に取り組まなければならない。

近年、業務の範疇外でも引き受けなければならない業務が増加し、複雑多岐にわたり、高度な知識、技術、対応力が求められることもあり、対策を講じる必要性を感じた。

(文責：課長 中嶋 光宏)

医事課

①概要

所属長名：浅津 里衣
構成職員：入院業務 3名
外来業務 3名
外来事務 1名

合計人数 7名

②活動内容・目標に対する達成状況

1. 昨年度平均入院患者数が、目標の155人に達成せず150.2人だったので今年度引き続き155人を目標

にしてきた。結果、154.8人と少しおよばなかったが、診療報酬は2,840万円増収となった。

2. 外来は、昨年度106.0人が109.2人と少し増加していたが、診療報酬は1,250万円減収となった。

③今後の課題

1. 外来の減収の原因として、診療報酬の改正により「抗精神病薬多剤投与」が厳しくなり細かい条件で減点となることがあげられる。できるだけ変薬をしてもらうようカルテに付箋をつけて主治医にわかるようにしたり、処方内容にしろしをつけてわかりやすくするなど工夫している。



2. 今後も、診療報酬点数の改正は厳しくなるばかりなので、点数のとりぬかりがないように勉強していかねばならない。

(文責：課長 浅津 里衣)

医療相談室

①概要

主 任：曾根 宏一郎

構成職員：精神保健福祉士 6名

平成28年度の医療相談室は、人事異動に伴い、4月に1名、10月に1名が異動。重度認知症デイケアから1名、デイケアから1名が新たに加わり、現在6名体制となっている。

②活動内容・目標に対する達成状況

業務相談内容は主として、入院中の問題調整、退院援助、在宅生活問題援助、経済問題調整など（平成28年度業務別図1 p131参照）である。

1. 各病棟を個別担当制で対応している。P S W同士が相談し合い、医療相談室単位でフォロー体制を築くことにより、患者さんやご家族へよりよい支援を提供できるよう努めた。
2. 高知県の情勢を把握し、外部機関との有機的な連携を図ることを目的に院外各種会議へ積極的に参加した。
3. 退院支援委員会の期限管理、運営を医療相談室が行っている。退院支援委員会については、担当のP S Wが退院後生活環境相談員としての役割を担い、期日に応じて随時開催している。
4. 実習への動機と課題を明確化することを目的とした見学訪問2名、精神保健福祉士受験資格取得のための実習生2名の受け入れを行った。



③今後の課題

1. 各人が一層の自己研鑽、実力の向上を目指す。
2. 各病棟を個別担当制で対応しているため、相談室内での情報共有を密にして、円滑な対応を図る。また各P S Wが調整役という役割を意識し、多職種、関係機関との連携を深める機会を多く持つよう心掛ける。
3. 患者、家族のニーズに合わせた社会資源を積極的に開拓し、職員相互に情報共有し、具体的な支援へ結びつける。

(文責：主任 曾根 宏一郎)

委員会

定例会	チーム医療運営会議
	幹部会議
	医局会
委員会	倫理委員会
	行動制限最小化委員会
	医療安全管理委員会
	⇒医療安全管理推進委員会
	⇒医療ガス安全管理委員会
	院内感染委員会
	⇒院内感染予防推進委員会
	褥瘡対策委員会
	⇒褥瘡対策推進委員会
	衛生委員会

委員会	栄養委員会
	NST委員会
	診療録管理委員会
	薬事審議会
	音楽療法委員会
	臨床研修管理委員会
	図書委員会
	サービス向上委員会
	療養病棟入退棟適正委員会
看護部委員会	管理職研修会
	看護部会
	接遇委員会
	主任会

看護部委員会	記録委員会
	重度認知症患者デイケア利用判定会
	重度認知症患者デイケア他部署連絡会
	精神科デイケア運営委員会
	精神在宅関連調整会議
	精神科グループホーム運営委員会
仁生会全体	広報委員会
	事務連絡会
	人事制度検討委員会
	仁生会教育委員会

※上記の「⇒」は、委員会の下部組織です。



医療安全管理委員会

1 平成28年度 目的・目標

1. 医療事故発生時の対応が適切にでき、再発防止に努める
2. 医療安全に関する知識の向上を図り事故を未然に防ぐ取り組みを行う

2 活動内容・目標に対する達成状況

1. 全般
 - (1) アクシデント報告件数 10件
(平成27年度103件、平成26年度85件)
 - (2) インシデント報告件数 293件
(平成27年度203件、平成36年度89件)今年度はアクシデントとインシデントのレベル区分の見直しを行い、アクシデント報告書の件数はレベル2以上をアクシデント報告書に変更したためかなり減少した。インシデント報告書においては、昨年同様に推進委員会で「ヒヤットとした、ハットとした」事案に対して報告書をこまめに作成するように警鐘した。昨年度までは医師による報告書の提出がなかったが、医師への警鐘を行い報告書が提出されるようになった。
2. 転倒転落事案について
当院における医療事故の内容別集計では、昨年同様に「転倒転落怪我」が最多である。
平成28年度の転倒転落事案の件数は以下の通り
アクシデント報告件数 8件 (80%)
(平成27年度52件 (50.4%)、
平成26年度43件 (50.6%))

インシデント報告件数 119件 (40.6%)
(平成27年度85件 (41.3%)、
平成26年度48件 (53.9%))

転倒転落事故防止への取り組みとして、推進委員が毎月、院内巡視チェックシートに基づき転倒事故を誘発しやすい物品の存在やベッドや車椅子などの安全性、危険箇所がないか点検を行い、結果を委員会に持ち寄り、改善策を立案し、各部署で実施、評価を行った。その後、改善されているか再巡視をして確認指導を行った。また、転倒リスクの高い患者には転倒予防シューズの個人購入や、転倒予防グッズ(転倒むし・コールマット)の検討を行い必要箇所に設置するようにした。

3. 誤薬事案について

平成28年度の誤薬事故はアクシデント0件、インシデント57件 (19.5%)と転倒転落事故について多い割合を占めている。内容としては、患者間違い、服薬忘れ、重複与薬、服薬時間間違い、オーダーリング抜け、ダブルチェック抜けなどである。推進委員会の誤薬小委員会で報告書を集計し、リスクの高いものや事故頻度の多い事案については事故要因などを検討し、改善策を立案し、各部署に周知徹底を行い、誤薬防止に向けての取り組みを実施・評価した。

4. その他

医療安全に関する知識向上のために研修会の開催を行った。1回目は「医療安全に関する基礎知識とユニティ病院的医療事故状況について」2回目は「転

倒転落防止のための安全対策ガイドライン」について研修会を行い、それぞれ、ビデオ撮影を行い、当日参加できなかった職員に対して、後日DVD研修会を開催した。医薬品管理研修会と医療ガス研修会

も同様にビデオ撮影を行い、不参加者に対してDVD研修会を開催し、参加率の向上を図った。

(文責：委員長 藤原 奈津子)



院内感染委員会

①平成28年度 目的・目標

- 1) 院内感染症をゼロに近づけること
- 2) 院内感染の予防と予防推進のための勉強をすること

②活動内容・目標に対する達成状況

院内感染症(MRSA、緑膿菌、肺炎球菌、結核菌、インフルエンザ、ノロウイルス、ロタウイルス、疥癬など)については、大きな発生はなく、インフルエンザの単発的なもの。ノロウイルスの集団的な発生もなく経過しました。緑膿菌は、病棟で3、4例みられる時期はありましたが、大きな問題となることなく経過しています。

結果としては、ノロウイルス、インフルエンザの単発的な発症はありましたが、隔離が速やかに行われ、院内感染が広がる状況は避けることができています。

この状況は、3年続いており、これを持続させなくてはいけないと思っています。このように感染予防ができているということは、持ち出しになる経費を削減できることでもあります。

院内感染症対策研修会は、DVD録画をし、それを使用することによってほぼ全員に研修ができました。

院内での情報の徹底、家族への面会制限も実施され、それなりに結果を残せた年と言えると思います。

自分もインフルエンザにかかり、5日ほど休まなくてはいけないこともありました。院内感染症対策の基本は、日々の勉強、知識の更新もありますが、肝心要は、スタンダードプリコーションと、自己の健康管理に集約できると思いました。

(文責：院内感染症委員長 弘井 正)



褥瘡対策委員会

①平成28年度 目的・目標

当院は、褥瘡発生ゼロを目指して、毎月褥瘡危険因子のスクリーニングを実施し、ハイリスク患者(15点中、6点以上)の抽出を行っている。ハイリスク患者に対しては、より重点的に褥瘡発生を予防するために特段の配慮をするように努めている。また、褥瘡が発生した患者に対しては毎週1回褥瘡回診を行い、適切な処置を行っている。

②活動内容・目標に対する達成状況

平成27年度は、褥瘡患者は15人(1.25人/月)であるが、昨年よりの継続者が2人、褥瘡持ち込み患者が3人いるため、当院新規発生褥瘡患者は10人(0.83人/月)となる。新規患者が発生しなかったのは1年のうち3カ月間のみであった。褥瘡回診患者数は、週1

回の回診時において平均3.4人/回であった。褥瘡発生者はUNG病棟に多かった。

高齢者でADLや栄養状態の低下した患者に多く、感染症合併により発熱で寝込むと褥瘡を発生することが多い。そして1度発生すると難治状態になる。また、病状が重篤化して褥瘡が発生し、死亡に至った者は53人であった。来年度への褥瘡持ち越し患者は4人であった。

当病棟の性格上、長期入院する患者が非常に多い。褥瘡発生ハイリスクの患者は毎月の集計で20%を超える。看護・介護職員による褥瘡発生予防対策が行き届いていても、新規褥瘡の発生を抑えることができない現実がある。

(文責：委員長 松田 幸彦)



NST委員会

①平成28年度 目的・目標

毎月全患者に対する病棟看護師による栄養状態スクリーニング(CENS:clinical estimation of nutritional status)を行い患者の栄養状態の把握に努めている。また同時に糖尿病・脂質異常症・肥満・心臓病・腎臓

病・貧血患者をピックアップして、特別治療食加算につなげている。

②活動内容・目標に対する達成状況

当院入院患者の低体重(BMI<18.5)のヒトは1

／4を占める状態で、そのうちの9割超が65歳以上の高齢者である。高齢者の栄養改善は非常に困難を極め、食事摂取カロリーを単純に増加しても直接体重増加に結びつかない状況にある。今後はNST勉強会において低体重をテーマにして対応を講じる必要があると考える。

以下に本年度に実施したNST勉強会におけるテーマを記載する。「人生の最終段階における高齢者における医療をどうすべきか」を中心に勉強したが、スタッフへの周知が不十分である問題が残った。

- 4月 新型栄養失調／
- 5月 認知症患者の不可解な行動には理由がある／
やっではいけないウォーキング
- 6月 高齢者終末期医療の是非／生活習慣病について

- 7月 大腸がんについて
- 8月 高齢者のための五原則：WHOの提言
- 9月 高齢者に対する適切な医療提供の指針2010／
不良姿勢について
- 10月 終末期における水分・栄養導入決定のガイド
ライン1／摂食・嚥下について
- 11月 終末期における水分・栄養導入決定のガイド
ライン2／
- 12月 終末期における水分・栄養導入決定のガイド
ライン3／入院時食事療養
- 1月 疥癬の発生について／
- 2月 終末期における水分・栄養導入決定のガイド
ライン4／結核の検査
- 3月 QOLについて考える／1型糖尿病について

(文責：委員長 松田 幸彦)



薬事審議会

①平成28年度目的・目標

原則、月に1回と特別な審議事項のあるときに当院の医薬品使用の適正化並びに円滑化を図るために実施する。

②活動内容・目標に対する達成状況

- (1) 新規採用医薬品の選定に関すること
- (2) 医薬品の購入・管理・使用の適正化に関すること
- (3) 医薬品情報に関すること
- (4) 医薬品の廃止に関すること
- (5) 臨時薬の取り扱いに関すること
- (6) 副作用情報や対策に関すること
- (7) その他の医薬品に関すること

上記の内容を委員長（医局長）、委員（院長・医師・

看護部長・事務部長・医事課長・総務課長・薬剤管理室長・委員長が出席を必要と決めた者）により審議し、結果はチーム医療運営委員会や薬局ニュースで報告する。

<達成度>

常勤薬剤師1名体制であったため、調剤業務に支障を来さないよう、休会が続いていたが、今後は定期的開催して採用医薬品の適正化と後発医薬品の導入、さらには細木病院採用医薬品との統合を図っていきたい。

(文責：薬剤管理室長 山本 創一)

平成29年4月1日就任)



衛生委員会

①平成28年度目標

- ・ストレスチェックの実施
- ・労災事故の防止
- ・職場環境の改善

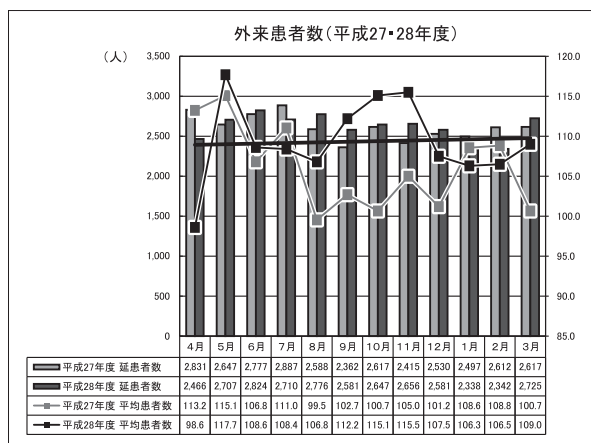
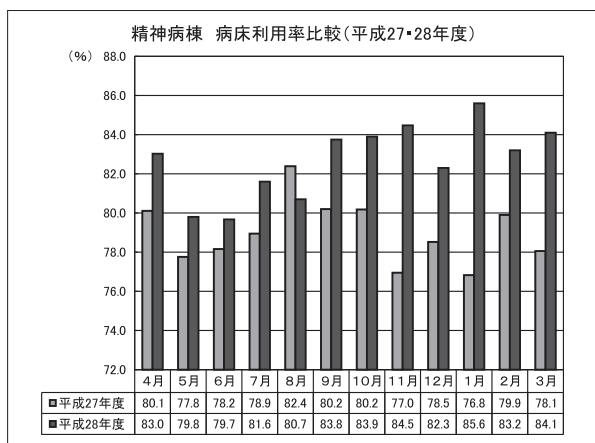
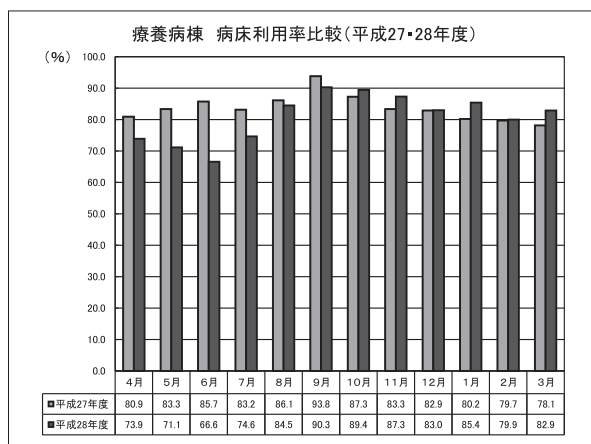
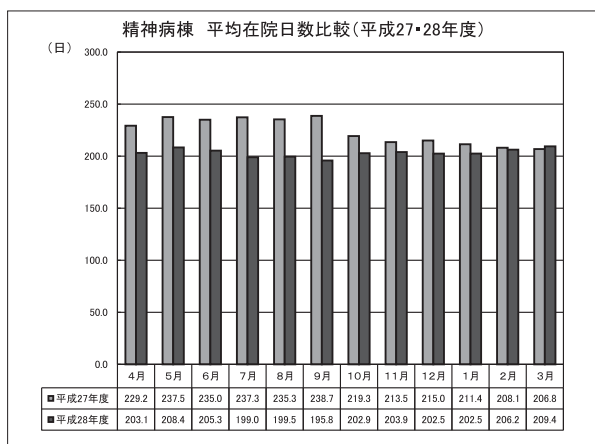
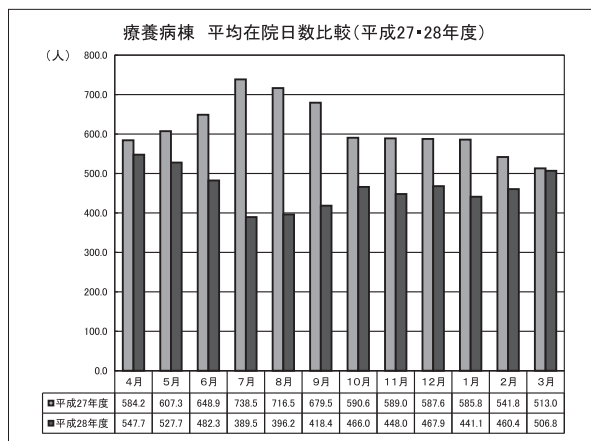
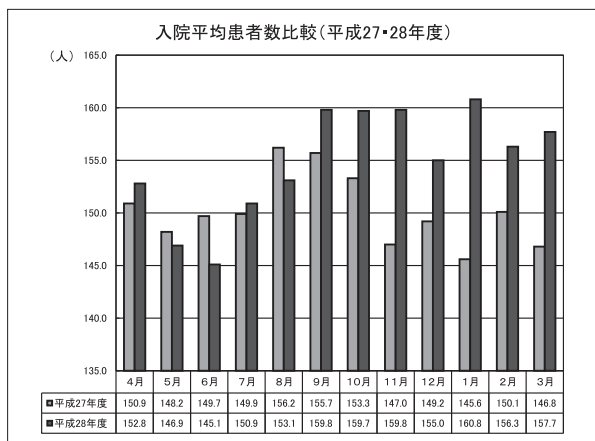
②活動内容・達成状況

- ・月に1回、衛生委員会の開催
- ・各部署の不具合箇所の改善
- ・健康診断の受検率は100%
- ・ストレスチェックの受検率92%

(文責：事務部長 豊島 正)

診療部

■ 平成28年度 医事課 入院・外来患者数統計（平成27・28年度）



細木病院

細木ユニティ
病院

三愛病院
あうん高知

日高クリニック

本部

アドレス・高知

福寿園

積善会

看護部

■ US 2 病棟（病棟形態：医療療養病棟）

平成28年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
病床利用率（％）	73.9	71.1	66.6	74.6	84.5	90.3	89.4	87.3	83.0	85.4	82.9	82.9
平均患者数（人）	29.9	29.6	29.0	28.7	28.7	28.6	28.6	28.8	28.8	28.9	29.0	29.1
平均在院日数（日）	545.8	545.8	519.2	483.8	495.0	483.8	495.0	495.0	495.0	495.0	519.2	506.8

■ UN 3 病棟（急性期治療病棟）

平成28年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
平均患者数（人）	31.5	31.2	31.1	31.5	31.0	31.0	31.2	31.6	31.3	31.3	30.9	30.7
O	病床利用率（％）	84.3	67.1	67.6	84.8	59.4	71.9	77.2	80.0	60.8	72.6	56.9
	平均在院日数（日）	54.0	54.0	54.0	53.6	54.4	54.4	54.4	54.4	54.4	54.8	54.8
C	病床利用率（％）	84.2	68.0	76.2	77.7	79.7	79.5	83.1	80.8	83.5	86.8	79.5
	平均在院日数（日）	81.5	81.5	82.0	82.0	81.5	82.0	82.0	82.0	82.0	82.0	82.0

■ UNG 病棟（精神科一般病棟）

平成28年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
病床利用率（％）	76.2	79.5	77.1	80.0	83.3	88.7	84.0	87.7	86.4	89.4	91.0	92.8
平均患者数（人）	43.2	43.5	43.7	43.8	43.8	43.9	43.9	44.0	44.4	45.1	45.6	46.6
平均在院日数（日）	424.8	424.8	424.8	414.5	414.5	409.5	414.5	414.5	414.5	414.5	419.6	419.6

■ US 5 病棟（精神科一般病棟）

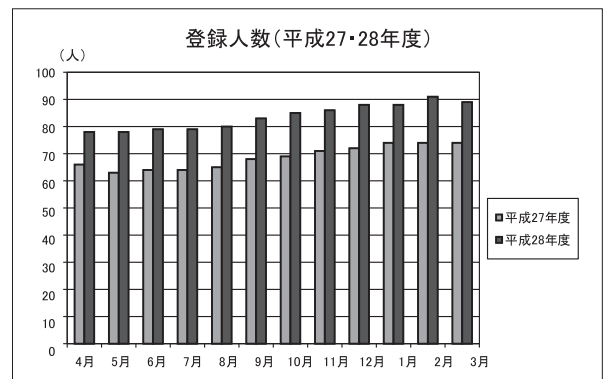
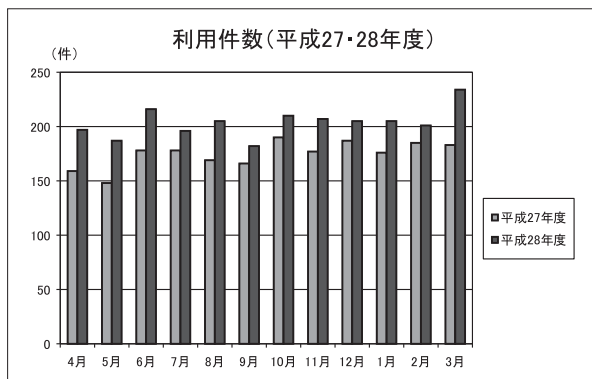
平成28年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
平均患者数（人）	45.8	46.0	46.1	46.0	46.2	46.5	46.9	47.2	47.6	48.1	48.4	48.4
L	病床利用率（％）	92.2	89.7	89.1	87.8	87.1	88.4	90.4	91.4	90.8	82.8	81.1
	平均在院日数（日）	852.7	852.7	815.7	815.7	852.7	815.7	815.7	815.7	815.7	815.7	815.7
H	病床利用率（％）	85.1	87.4	84.3	80.3	80.5	79.2	81.1	76.7	73.4	78.0	84.3
	平均在院日数（日）	1275.1	1275.1	1105.1	1105.1	1036.0	1036.0	1036.0	1036.0	1036.0	1036.0	975.1

■ 訪問看護室 精神科訪問看護 （利用件数）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
平成27年度	159	148	178	178	169	166	190	177	187	176	185	183	2,096
平成28年度	197	187	216	196	205	182	210	207	205	205	201	234	2,445

（登録人数）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
平成27年度	66	63	64	64	65	68	69	71	72	74	74	74	824
平成28年度	78	78	79	79	80	83	85	86	88	88	91	89	1,004

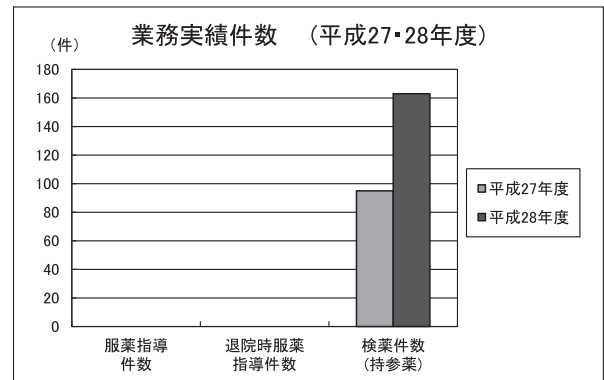
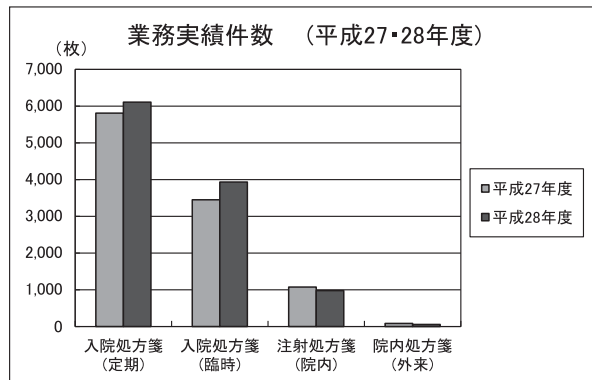


医療技術部

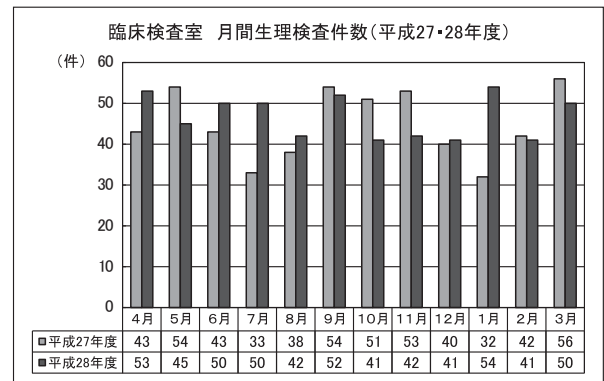
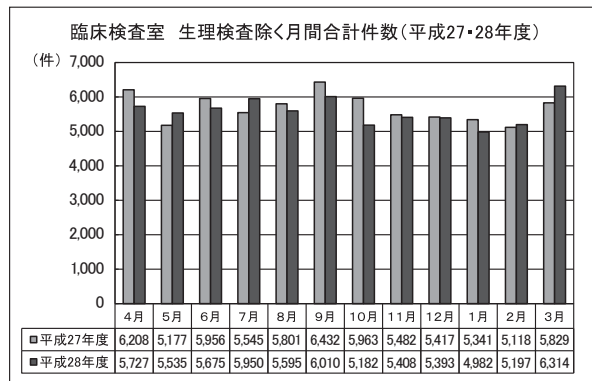
■薬剤管理室 業務実績

各処方箋枚数／服薬指導・検薬件数

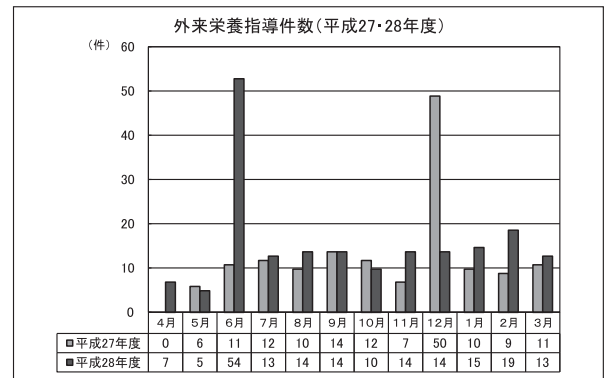
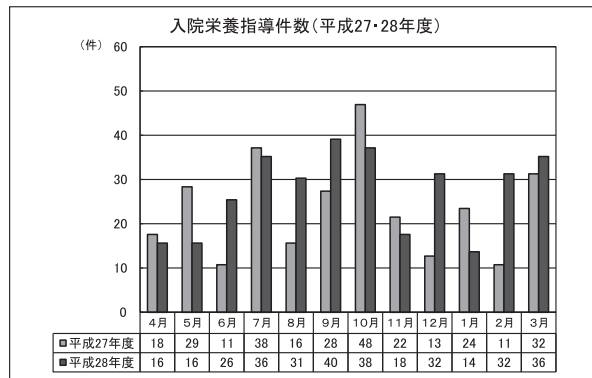
項目	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
入院処方箋枚数（定期）	500	435	491	480	528	604	472	522	573	452	480	572	6,109
入院処方箋枚数（臨時）	262	306	271	312	323	330	318	362	403	314	370	363	3,934
注射処方箋枚数（院内）	77	88	67	86	80	124	115	44	61	70	78	88	978
院内処方箋枚数（外来）	8	5	5	6	5	4	5	4	3	4	3	5	57
服薬指導件数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
退院時服薬指導件数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
検薬件数（持参薬）	15	6	14	14	14	19	10	13	13	17	12	16	163



■臨床検査室 月間合計件数



■栄養管理室 栄養指導件数



*栄養ケア・マネジメント加算 対象外のため省略いたしました

細木病院

細木ユニティ病院

三愛病院
あつん高知

日高クリニック

本部

アドレス・高知

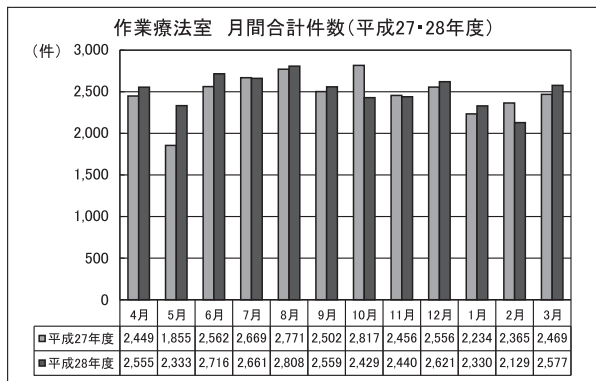
福寿園

積善会

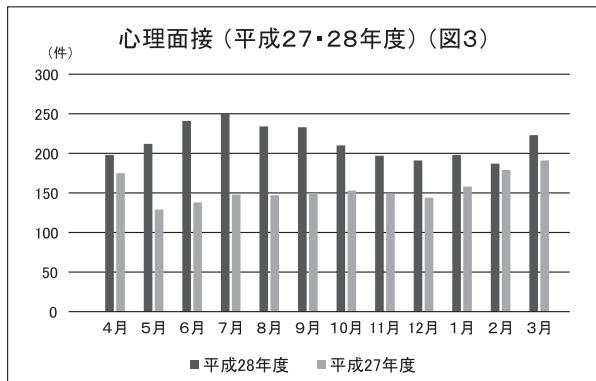
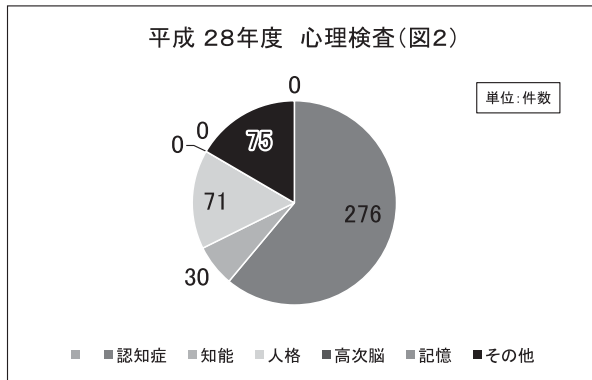
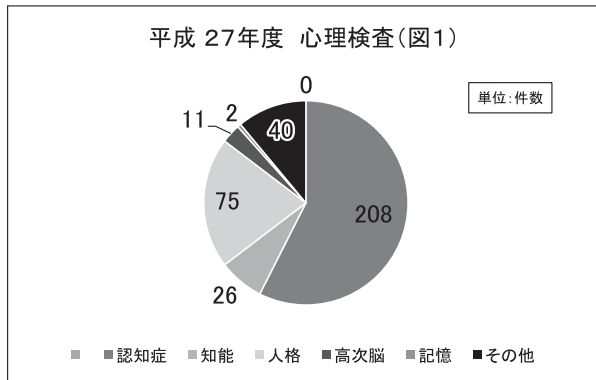
■作業療法室 月間合計件数

単位：件

項目	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
平成28年度	2,555	2,333	2,716	2,661	2,808	2,559	2,429	2,440	2,621	2,330	2,129	2,577	30,158



■臨床心理室 検査・面接実績件数



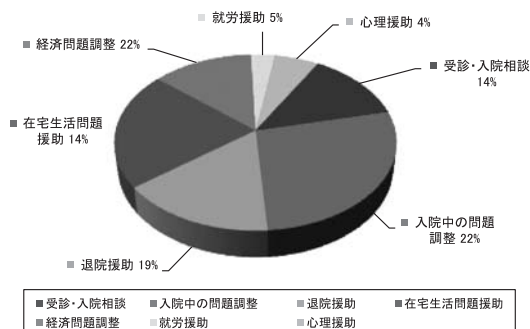
事務部

医療相談室 平成28年度 業務実績 相談件数

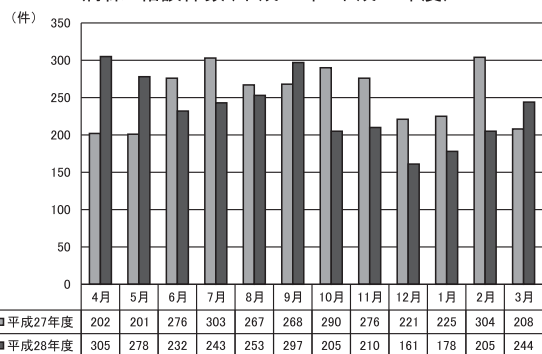
単位：件

項目	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
病棟	305	278	232	243	253	297	205	210	161	178	205	244	2,811
外来	198	208	224	262	232	183	128	165	99	140	117	180	2,136

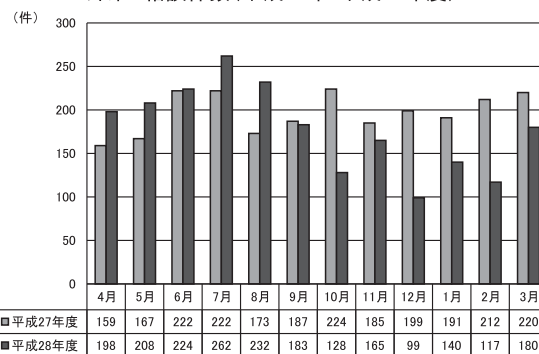
平成28年度 業務別(図1)



病棟 相談件数(平成27年・平成28年度)



外来 相談件数(平成27年・平成28年度)



院内発表会

細木ユニティ病院 平成28年度 研究発表会

2016年3月16日(木)
(時間) 12時30分～13時45分
S館6階ホールにて

区分	演題・内容	部署・チーム名	発表者
業務改善	「自立」へつながらるプログラム作りを目指して～「なんとなく」⇒「自分でやりたい」に変わるプログラム作り～	デイケアフレンズ	○大原 千春、黒岩 恵子
研究発表	不安を抱えている患者への取り組み～施設入所に向けて～	US 5病棟	○岡林 紀江、中村 円、 蒲原 帆奈美、川村 孝則、 大藪 康平
研究発表	認知症患者への退院支援における看護師の学び	UNG病棟	○岡林 まな美、毛利 剛、 前田 倫子、橋本 奈生子
業務改善	おむつの当て方	US 2病棟	○大西 由美、西森 将吾、 手島 正人、橋田 千恵子

細木病院

細木ユニティ
病院

三愛病院
あうん高知

日高クリニック

本部

アドレス・高知

福寿園

積善会

■ 看護部

看護部長室

□ 誌上発表（論文・著作・寄稿）

1. 岡本真知子：「厳しく指導することを恐れない！看護現場ならではのパワハラを正しく理解してスタッフと向き合おう」、月刊ナースマネジャー第18巻第6号／看護師長のアクション！、2016年8月31日発行 日総研出版

□ 学会・研究会

1. ○荒木 恵、尾崎和人、山本由衣、横畠大貴、上総真由美、窪内淳子：「病棟看護師の認知症看護における達成感」、平成28年度日精看護研究発表会、主催：日本精神科看護協会高知県支部、高知市、2016年10月22日

□ 講演（講習会）

1. 岡本真知子：「人を育てる職場環境」、日本精神科看護学術集会、岩手県盛岡市、2016年6月11日
2. 岡本真知子：「看護管理者の悩みをスッキリ解消します！」、日本精神科看護学術集会、岩手県盛岡市、2016年6月11日
3. 岡本真知子：「やさしさを超えた精神科看護」、日本精神科看護協会島根県支部、島根県出雲市朱鷺会館、2016年6月25日
4. 岡本真知子：「臨床倫理と患者の人権」、日本精神科看護協会高知県支部、高知市、2016年7月30日
5. 岡本真知子：「看護サービスと記録」、高知県看護協会認定看護管理者研修、高知市、2016年8月20日
6. 岡本真知子：「病院の役割機能」、日本福祉アカデミー、高知市、2016年8月24日
7. 岡本真知子：「精神科看護管理研修」、日本精神科看護協会岡山県支部、岡山市、2016年9月3日
8. 岡本真知子：「困った行動」に毅然と対峙できる力をつける、日総研、札幌市、2016年10月1日
9. 岡本真知子：「管理者研修会」、一般社団法人創精会松山記念病院、愛媛県松山市、2016年10月28日
10. 岡本真知子：「精神科看護管理者研修」、日本精神科看護協会愛媛県支部、松山市、2016年10月29日
11. 岡本真知子：管理者研修会「勇気づけのすすめ」、医療法人敬愛会久米病院、松山市、2016年11月26日
12. 岡本真知子：「困った行動」に毅然と対峙できる力をつける、日総研、東京都千代田区、2016年12月3日
13. 岡本真知子：管理者研修会「勇気づけのすすめ」、日本精神科看護協会香川県支部、香川県高松市、2016年12月13日
14. 岡本真知子：「困った行動」に毅然と対峙できる力をつける、日総研、名古屋市、2016年12月17日
15. 岡本真知子：看護管理の達人と行く「精神科看護管理セミナー」、日本精神科看護協会、島根県浜田市、2017年1月13日～1月14日
16. 岡本真知子：「気持ち伝わる話し方」、NPO法人ほっとはあと、高知市、2017年1月16日
17. 岡本真知子：「困った行動」に毅然と対峙できる力をつける、日総研、大阪市、2017年1月21日

18. 岡本真知子：「事例検討会助言者」、越知町地域ケア個別会議、高知県高岡郡越知町、2017年2月15日
19. 岡本真知子：管理者研修会「勇気づけのすすめ」、日本精神科看護協会徳島県支部、徳島市、2017年2月23日
20. 岡本真知子：「困った行動」に毅然と対峙できる力をつける、日総研、岡山市、2017年2月25日

□ 講義（講師）

1. 岡本真知子：精神看護学非常勤講師、高知県医師会准看護学院、高知市、2016年9月1日～3月31日
2. 岡本真知子：精神看護学非常勤講師、龍馬看護ふくし専門学校、高知市、2016年9月1日～3月31日

□ 座 長

1. 岡本真知子：病棟運営・看護師業務、中四国精神保健学会、愛媛県松山市、2016年11月11日

□ 取 材

1. 岡本真知子：ナーシングスター 座談会「看護管理の達人が振り返る2016年」、日本精神科看護協会、東京都品川区、2016年10月9日

□ その他

1. 岡崎郁子：高知県看護協会中央西地区連絡委員、高知県看護協会、高知市、2016年4月1日～2017年3月31日
2. 岡本真知子：日本精神科看護協会高知県支部支部長、日本精神科看護協会、高知市、2016年4月1日～2017年3月31日
3. 岡本真知子：認定看護管理者教育運営委員長、高知県看護協会、高知市、2016年4月1日～2017年3月31日
4. 窪内淳子：高知県看護協会職能委員、高知県看護協会、高知市、2016年4月1日～2017年3月31日
5. 本村新一：日本看護協会高知県支部会計部長、日本精神科看護協会、高知市、2016年4月1日～2017年3月31日
6. 永野吉昭：日本精神科看護協会高知県支部会計副部長、日本精神科看護協会、高知市、2016年4月1日～2017年3月31日

■ 医療技術部

臨床心理室

□ 講義（講師、院外研修指導者を含む）

1. 野瀬一央：「第85回赤ちゃん会」、高知新聞社、高知市、2016年4月17日
2. 野瀬一央：「ことばと発達の相談会」、土佐市教育委員会、土佐市、2016年7月23日
3. 野瀬一央：「第14回口裂口蓋裂相談会」、高知県、高知市、2016年11月20日

▶実習・研修生 (2016年4月1日～2017年3月31日)

細木病院

細木ユニ
メディ
病院

三愛病院
あうん
高知

日高クリ
ニック

本
部

アド
レス・高知

福寿園

積善会

依 頼 元 名	延べ人数
診 療 部	
社会医療法人仁生会 細木病院	2
看 護 部	
高知県立大学 看護学部看護学科(4回生)	6
高知県立大学 看護学部看護学科(3回生)	21
高知学園短期大学 看護学科(3回生)	68
高知学園短期大学 看護学科 総合実習(3回生)	14
穴吹医療大学校 看護学科通信課程	14
(精神科 デイ・ケア、デイ・ナイト・ケア、ショート・ケア「フレンズ」)	
愛媛十全医療学院 作業療法学科(3回生)	3
(重度認知症患者デイ・ケア デイ・アルテン)	
土佐リハビリテーションカレッジ作業療法学科(4年生)	1
高知リハビリテーション学院作業療法学科(4年生)	1
高知学園短期大学 看護学科(3年生)	3
医療技術部 (作業療法室)	
高知リハビリテーション学院 作業療法学科(2回生)	5
高知リハビリテーション学院 作業療法学科(3回生)	1
岡山医療技術専門学校 作業療法学科(3回生)	1
土佐リハビリテーションカレッジ 作業療法学科(2回生)	4